

科目名	マス・メディア論
科目名(英訳)	Mass Media Theory
科目ナンバー	HI213D01
詳細情報	授業外学修時間:週4時間
担当者 (非)は非常勤講師	王 昊凡
単位数	2
開講学年	2年
開講セメスター	春期毎週
対象学科 選択・必修	必修: 選択:HI
他学科受講	
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	【春学期】 王 昊凡:月9-10
カリキュラムの中での位置付け ／DP(ディプロマ・ポリシー)	コミュニケーション学科専門教育科目の中の文化情報デザイン応用科目のうちのメディア文化情報リテラシー運用科目として位置づけられる。メディア文化情報リテラシー運用科目は、幅広い人文的素養をもとに、どのような情報が提供するに値するのかを判断することができるようになるための科目群である。本講義は、マス・メディアにおける情報デザインの理論的フレームの形成過程から、社会への影響とそれによってもたらされる各種情報の利活用を学ぶ科目である。
身につく基礎力 / 身につく汎用力	コミュニケーション力 調査・情報収集力

授業の主旨 (概要)	マス・メディアに関する諸議論について、「マス」という言葉がもつ意味合いや関連する概念に触れながら、理論的なものも含め、説明をします。同時に、これらの諸議論をふまえて、受講生が自らの考えを練る機会も設ける予定です。		
具体的 達成目標	マス・メディアに関する諸議論について、概要を理解できるようになる。また、得た知識をふまえて、現代社会の諸現象について考え、それを文章にまとめることができるようになる。		
	1	【内容】	プロローグ:本講義の目標・評価基準と位置づけ
		【授業外学習】	親世代とメディアに関する感覚の違いを感じることはありますか?日々の暮らしを思い返して、文章にまとめてみよう。
	2	【内容】	印刷と複製(1):大衆社会とマス・メディア
		【授業外学習】	学んだ概念と関連する受講生自身の経験について、文章にまとめてみよう。
	3	【内容】	印刷と複製(2):コーヒーハウス・新聞・公共性
		【授業外学習】	インターネットは市民的公共性の基盤になると思いますか?
	4	【内容】	ネイションを想像する(1):ナショナリズムの形成と出版資本主義
		【授業外学習】	戦前の日本のナショナリズムがどのように崩れたのか、想像してみましょう。
	5	【内容】	ネイションを想像する(2):テレビと単一民族
		【授業外学習】	BILIBILI動画の日本旅行動画を見て、クールジャパン時代の国民文化について考えてみましょう。
	6	【内容】	効果研究
		【授業外学習】	学んだ概念と関連する受講生自身の経験について、文章にまとめてみよう。
	7	【内容】	世論をめぐる3冊

④ 授業計画		【授業外学習】 学んだ概念と関連する受講生自身の経験について、文章にまとめてみよう。
	8	【内容】 プロパガンダ・検閲・権威主義
		【授業外学習】 プロパガンダの例をひとつさがしてみよう。
	9	【内容】 「メディアはメッセージ」と「声の文化と文字の文化」
		【授業外学習】 学んだ概念と関連する受講生自身の経験について、文章にまとめてみよう。
	10	【内容】 メディア・イベントとその時代
		【授業外学習】 平成から令和への改元をどう体験したか話し合ってみよう。
	11	【内容】 ローカル・メディア、エスニック・メディア、社内メディア
		【授業外学習】 海外の日本語メディアについて調べてみよう。
	12	【内容】 メディアと階層・階級
		【授業外学習】 学んだ概念と関連する受講生自身の経験について、文章にまとめてみよう。
	13	【内容】 エンコーディング／デコーディング
		【授業外学習】 2120年に生きる人達に、あなたの日常生活について説明する文章をつくろう。
	14	【内容】 メディア産業とアマチュアリズム
		【授業外学習】 これからアマチュアリズムは興隆する？しぼむ？意見を書いてみよう。
15		【内容】 エピローグ：全体のまとめと質問コーナー
		【授業外学習】 レポート課題の作成について質問がある人は、聞きましょう。
④ 授業方法	講義形式をとります。レジュメを配布し、プロジェクターを使用します。 授業では毎回「授業後コメント課題」を課していますが、学生へのフィードバックとして、次の回で冒頭で一部取り上げて紹介することがあります。	
④ 成績の 評価方法	授業への参加度30%、期末レポート70%をもって、総合的に判断します。	
④ 成績の 評価基準	授業への参加度は単純な出席の有無ではなく、コメントシートや小レポートの提出及びその内容をもって評価します。期末レポートについては①適切な文章の表現と構成、②論理的な破綻がないこと、③説得力のある説明をおこなうこと、④受講生が自らの力で考えた独創的なアイデアであること、を重視して評価します。剽窃をはじめとする不正行為については厳正に取扱います。	
④ 教科書		
④ 参考文献		
④ 備考		
④ 関連 ホーム ページ		
④ メール アドレス	王 昊凡 scx5753@fsc.chubu.ac.jp	
④ オフィス アワー		